

健康と病いの語り (DIPEX – Japan) の  
患者の語り (ナラティブ) から何を学ぶか Part 7

# 患者の病い経験を尊重できる 医療者育成のための 教育プログラムを考える

1

森田夏実<sup>1,4)</sup>、瀬戸山陽子<sup>2,4)</sup>、射場典子<sup>3,4)</sup>、和田恵美子<sup>4,5)</sup>  
竹内登美子<sup>4,6)</sup>、高橋奈津子<sup>4,7)</sup>、佐藤藤幹代<sup>4,8)</sup>、別府宏圀<sup>4)</sup>

1) 東京女子医科大学、2) 東京医科大学、3) 山梨大学

4) 特定認定NPO法人健康と病いの語りディペックスジャパン

5) 京都学園大学、6) 富山県立大学、7) 聖路加国際大学、8) 自治医科大学

2018年8月29日 (水) 於：パシフィコ横浜

## 本日の交流セッションのねらい

- ▶ 医療者との関係についての患者の語り映像教材の紹介
- ▶ 語り手（患者体験者）が「好ましいと感じた関わり」（goal）を教材として、医療者のかかわりを検討する
- ▶ 看護師（医療者）と患者・家族とのコミュニケーションのあり方や能力向上のための、教材の活用方法を見出す

# 本日の流れ

3

- 9:00～ 9:20 (20分) : オリエンテーション
  - ・ 「患者の語りに学ぶ意味」
  - ・ ディペックスの教育的活用について
- 9:20～ 9:30 (10分) : VTR視聴 (3つ)
- 9:30～ 9:35 ( 5分) : 個人感想記入
- 9:35～10:00 (25分) : 全体ディスカッション VTRの活用法について
- 10:00～10:10 (10分) : まとめ、提言
- 10:10～10:20 (10分) : アンケート記入、

## 【配付物】

1. レジメ
2. 個人感想記入用紙 (VTR視聴後の記録用紙)
3. アンケート用紙
4. DIPEX-Japan第6回教育ワークショップのお知らせ
5. DIPEX-Japanパンフレット



# インタビュー協力者プロフィール

- ▶ Aさん（乳がん、女性）
- ▶ 診断時：60歳
- ▶ インタビュー時：62歳（2008年3月）
- ▶ 近畿地方在住。2005年12月、大腸がんの術後の定期検診で胸部CTを撮り、偶然右乳がんが見つかった。乳房温存術、センチネルリンパ節生検、術後抗がん剤治療、放射線療法を受け、現在ホルモン療法をしている。日本語学校の教師をしていたが、乳がんをきっかけに退職した。

# インタビュー協力者プロフィール

- ▶ Bさん（前立腺がん、男性）
- ▶ 診断時：57歳
- ▶ インタビュー時：60歳（2008年2月）
- ▶ 診断当時は、企業の管理職として多忙な日々を送っていた。妻との間に子どもが3人。首都圏在住。吐き気、足のしびれ、腰痛など、2年近く体調不良を訴えて複数の医療機関を受診したが診断がつかず、2005年にようやく前立腺がん(ステージIV)の診断を受けた。ホルモン療法にて体調が改善したが、2年余りで再びPSA数値が上昇しつつある。

# インタビュー協力者プロフィール

- Cさん（潰瘍性大腸炎全大腸型、女性）
- 発症時：23歳
- インタビュー時：49歳
- 23歳の時に重症の全大腸型潰瘍性大腸炎で発症し緊急入院となる。プレドニン投与とIVHなど絶食治療で8か月入院し完全寛解で退院するも半年後に再発。以後20代は慢性持続型で経過する。  
25歳で結婚。26歳で両側大腿骨骨頭壊死と診断され、3年ほど杖をついていた。29歳で流産するが、翌年妊娠。妊娠初期にUC憎悪し入院するも、退院後は体調が安定し、長女を出産した。  
出産後8年間は寛解期となったが、その後憎悪、以後 再燃寛解を繰り返すようになる。毎年のように入院し、社会生活が困難なため相対的手術適応といわれるが、大腸摘出の手術はしていない。憎悪時の治療法は、盲腸に手術で管を通し、プロパデルムクリーム（ステロイド軟こう）を注入する治療や白血球除去療法を行った。  
病気体験をもとに、現在患者会活動を行っている。

# 教育的活用グループの活動 －ワークショップの開催－

- 2013年 第1回 患者の語り（ナラティブ）で医療系教育が変わる!!  
－健康と病いの語りデータベース（DIPEX-Japan）の教育的活用－
- 2014年 第2回 患者の語り（ナラティブ）で医療系教育を変える!!  
－患者と医療者の協働をどう実現するか？－
- 2015年 第3回 患者の語りから授業を作ろう！  
－患者と医療者のコミュニケーションに焦点を当てて－
- 2016年 第4回 患者の語り（ナラティブ）が医療者教育を変える
- 2017年 第5回 患者の語り（ナラティブ）が医療者養育を変える
- 2018年 10月27日（土）予定 ⇒ パンフレット参照  
第6回 患者の語り（ナラティブ）が医療者教育を変える